

岡谷スタンダードカリキュラムの 現状と今後の展開について

統合企画教員

学校教育の5つの重点

- 1 地域に根ざした特色ある学校づくりの推進
- 2 ふるさと「岡谷」に学ぶ学習の推進
- 3 笑顔で安心して学べる教育環境の整備
- 4 確かな学力保障と成長保障を図る授業改善
- 5 「自立と共生」につながる教育活動の充実

ものづくりに代表されるふるさと『岡谷』の
様々な地域資源を活かした、岡谷ならではの教育スタイル

「岡谷スタンダードカリキュラム」

岡谷の「ひと・もの・こと」に誇りと自信を持ち、
郷土を愛する心を醸成したい

岡谷スタンダードカリキュラムのねらいと価値

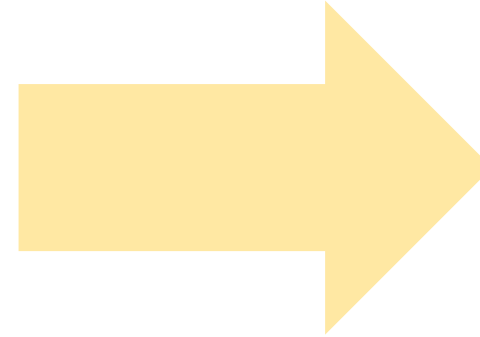
岡谷市の学校統合



魅力と活力ある新たな学校

学校統合

学校のあり方そのものに加え、岡谷の歴史や文化、教育や産業などの地域の力を見つめ直すチャンス



岡谷
スタンダード
カリキュラム

学力向上

学力向上推進委員会における全国学力・学習状況調査の結果分析や、各校の学力向上策の実施により、学習に関する関心意欲の高まり



体験的探求的な活動を大切にし、自分で課題を立て情報を集め整理し、調べたことを発表するなどし、日常生活で活用が図れるような学習に取り組むことが重要



・活力ある学校づくり
・子どもたちの「主体的・対話的で深い学び」を期する
学力向上の柱

主体的・対話的で深い学び

岡谷スタンダードカリキュラムとは

ふるさと岡谷には、豊かな自然、製糸、産業、武井武雄、小口太郎、諏訪湖、御柱など、豊富な学習の素材があり、これらを活かしながら、総合的な学習のほか、理科(科学)や社会(歴史等)などの教科・領域において、岡谷ならではの学習要素を取り入れる学習カリキュラムを構築し、岡谷に学び、育つ子どもたちが郷土を誇りに思い、郷土を愛する心とふるさと回帰の心を育む。

シルク

- 【1年】 生活 いきものと一緒 お蚕様とわたし
算数 くわのはっぱ たくさんついたね(20までの数)
- 【2年】 生活 お蚕様とわたし(飼育体験)
国語 かんさつ名人になろう
算数 動いちゃだめよ お蚕様 (長さ)
- 【3年】 総合 お蚕様とわたし(飼育・調査活動)
総合 近代産業遺産歴史めぐりに出かけよう
社会 かわってきた人々のくらし(製糸業)
理科 お蚕様を育てよう
- 【4年】 社会 郷土の発展につくす(片倉兼太郎、武居代次郎)
- 【5年】 社会 私たちの生活と工業生産(製糸業から工業へ)
家庭科 一針に心を込めて(シルク糸)
- 【6年】 総合 近代産業遺産歴史めぐりに出かけよう
国語 ようこそ私たちの町へ～岡谷のよさを伝えよう～
社会 世界に歩みだした日本(製糸王国岡谷と片倉兼太郎)
- 【1～6年】 道徳 岡谷の「もの」に学ぶ道徳 蚕霊供養塔
道徳 岡谷の『ひと』に学ぶ道徳 片倉兼太郎、武居代次郎



お蚕様の昆虫としての生態

理科



お蚕様の飼育

生活科
総合的な学習の時間
特別活動



図画工作

繭玉を使ったしおりやコサージュ作り

尊いお蚕様の命をいただいて繭玉や絹糸を作っていくことに向き合う



道徳

算数



成長していくお蚕様の体や繭糸の長さを調べ、量感をつかむ



社会

製糸業が明治から大正・昭和にかけて、日本の国力向上に果たした役割について考える

絹糸の素材の特徴に触れる



家庭科

音楽



組曲シルクロードの曲想から
悠久の営みにイメージを
膨らませる

これらの学びを
整理・記録し、
表現する

国語



教科や領域をまたいだ
総合的かつ横断的な
活動の展開

教科の枠を
超えた
つながり

シルク

多くの「ひと・
もの・こと」との
つながり

現在、過去、未来
に渡る「時」の
つながり

シルク岡谷学ぶ上で、出会う「ひと」

蚕糸博物館の
指導員さん

自分自身がもっと勉強し、
子どもたちの役に立ちたい
です。

これからも子どもたちと
学習を続けていくことが
楽しみになっていきました。

武居代次郎



子ども

学び合い

学び合い

教師

学び合い

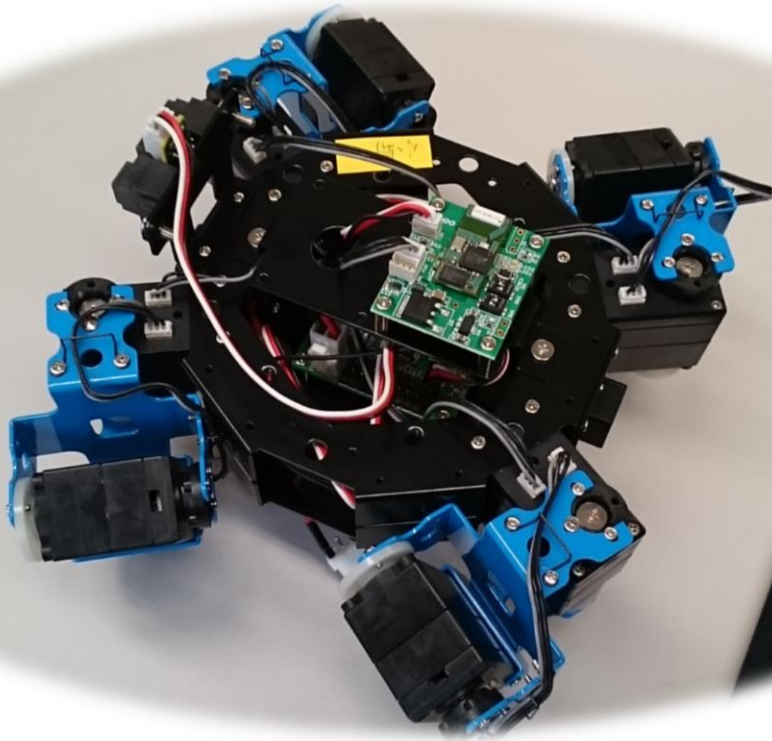
携わる地域
の人たち

学びの互惠性



ものづくり ロボットプログラミング授業

多脚ロボットの無線操作演習



H29年度 4・5・6年生対象



多脚ロボットがどのように作られているのか、 その仕組みについてのものづくり体験活動

4年

フレームの仕組み
お掃除ロボ製作
鉄板曲げ ねじ締め



5年

センサー基盤の仕組み
光センサーとLEDの
はんだづけ



6年

ICチップの仕組み
電卓の解体体験



前から、ロボットや機械は好き
だったけど、ロボット学習をして、
もっと好きになりました。

固い鉄だったけど、直角になってい
て、それは数千トンもの力で押し
曲げていることが分かって、岡谷市
の知識はすごいと思いました。



シルク岡谷を生かした道德学習



【単元のねらい】

蚕霊供養塔が建てられた当時の人々の思いを考えることを通して、岡谷の製糸業は、蚕と共存し命をつなぎ、その犠牲の上に成り立っていることに思いをいたし、生命が多くの命のつながりの中にあるかけがえのないものであることに気づくこと

照光寺『蚕霊供養塔』 蚕霊を慰めるものとして建立された全国的にも稀な木造の供養塔

蚕霊供養塔との出会い

塔が建立された意味

道徳的
価値

生命の尊重



新しく建設された広域の諏訪湖周クリーンセンターを 題材とした社会科学学習



諏訪湖周クリーンセンター



【単元のねらい】

ごみの処理や利用と自分たちの生活が深く関わっていることや、これらに関わる対策や事業が計画的、協力的に進められ、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解し、ごみの減量や資源の再利用などの自分たちにできることを考え、進んで取り組もうとすること



クリーンセンター
で働く人



市民生活課の
Kさん



市内リサイクル
施設で働くNさん



ごみを回収する
作業員の方

ごみ収集定位
置の様子

諏訪湖周
クリーンセンター

市内リサイクル施設

もの

最終処分場

ごみ収集カレンダー

ごみ分別ガイド



市出前講座



清掃委員の
当番活動

こと

地域の取り組み

地区衛生自治会

家族の取り組み

ごみ問題が、自分から遠く離れた出来事なのではなく、自分の「こと」であり、
そこで暮らす自分自身が岡谷の「ひと」なのだという気づき

岡谷の生活環境を反映しながら作り上げられてきた 食材を題材とした家庭科学習



【単元のねらい】

郷土の保存食材である「塩丸いか」、「信州みそ」、「岡谷のうなぎ」の特色を調べたり実際に調理したりすることを通して、岡谷では気候や文化に適したくらしが営まれてきたことや、そのくらしは地域の人たちの様々な工夫や努力に支えられていることに気づき、地域の中でくらしてきた自分自身の成長を振り返り、こらからも家族や地域の人たちとともに、よりよい生活を築いていこうとすること

子どもたちの学習問題

家庭科

1 長野県は どうしてこんなに幸福度や魅力度が高いのだろう。

わたしたちは、この地(岡谷)で、どのようにくらしているのだろう。

2 わたしたちは、この地(岡谷)で、どのようにくらしているのか、衣食住の工夫を考えよう。

3 なぜ塩丸いかはこんなにしょっぱいのだろう。

4 なぜ岡谷には、みそ工場がたくさんあるのだろう。

5 「うなぎのまち岡谷」はどのように知られていったのだろう。

6 岡谷の食材はどんな味なのだろう。

7 地域の中で、わたしたちはどのように成長してきたのだろう。



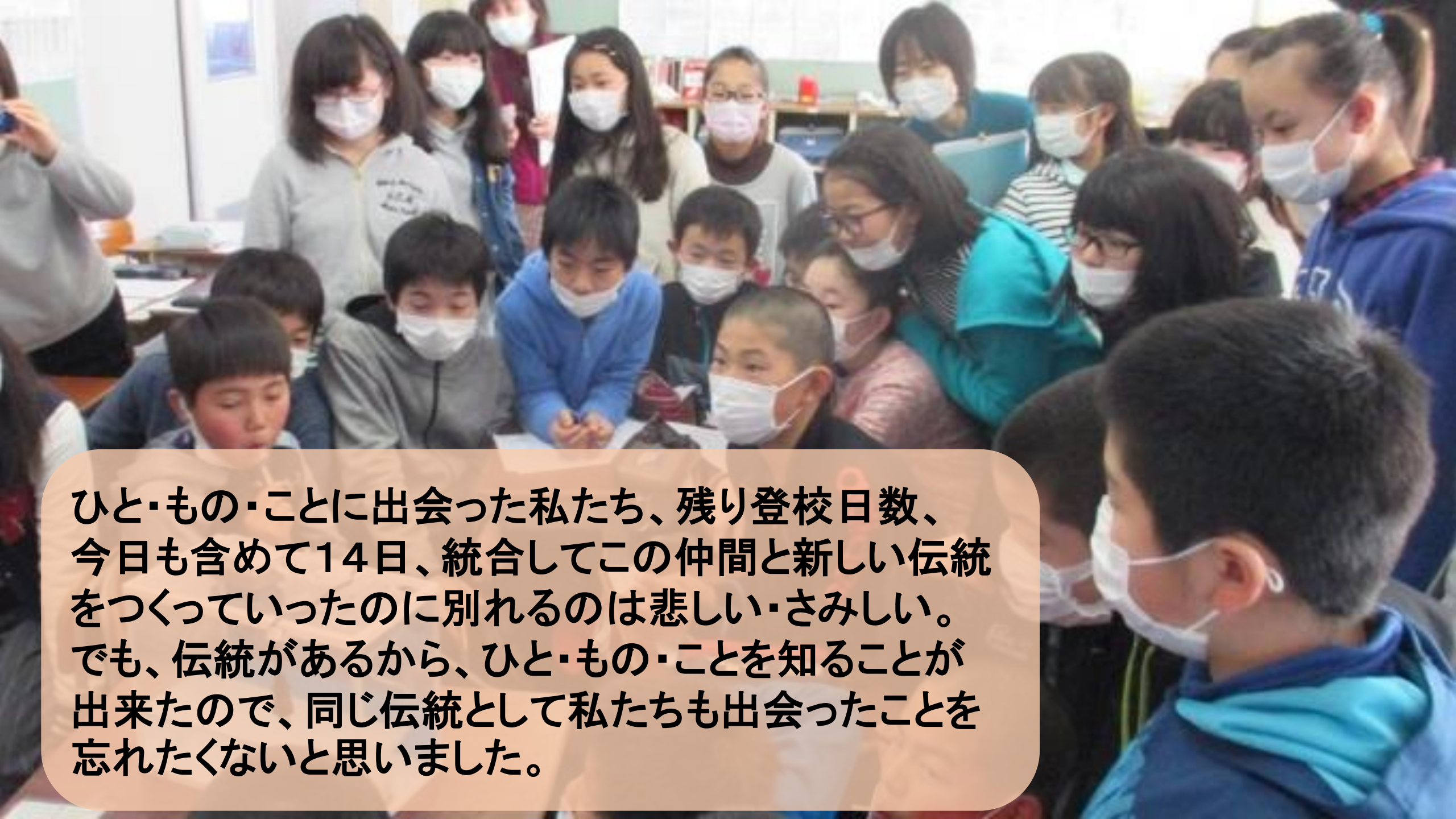


塩抜きをしていない塩丸いかを
口にした時の子どもたちの姿

かつて製糸工場だった
松亀味噌工場の屋根組
の写真を見ながら、
そのつながりを真剣に
考える表情



岡谷の特産であるうなぎ
のたれを使った「うなだれ
半熟卵かけご飯」を作り食
す子どもたちの体

A group of children and adults are gathered in a classroom, all wearing face masks. They are focused on something on a table in front of them. The children are of various ages, and the adults are likely teachers or staff. The atmosphere appears to be one of concentration and shared activity.

ひと・もの・ことに出会った私たち、残り登校日数、
今日も含めて14日、統合してこの仲間と新しい伝統
をつくっていったのに別れるのは悲しい・さみしい。
でも、伝統があるから、ひと・もの・ことを知ることが
出来たので、同じ伝統として私たちも出会ったことを
忘れたくないと思いました。

岡谷スタンダードカリキュラム

岡谷の標準的な教育課程



岡谷の「ひと・もの・こと」**を**学ぶ

武井武雄先生や岡谷で作られた工業部品、太鼓祭りなど
岡谷の「ひと・もの・こと」
自体を学ぶ

岡谷ならではの学び



「岡谷の「ひと・もの・こと」**に**学ぶ」

岡谷の「ひと・もの・こと」を通して、教科や学習指導要領の
学びを、より豊かに、より自分
事にしていこうとするもの

岡谷の
「ひと・もの・こと」
を学ぶ



これを学ばなければなら
ないというフレームの硬
直したもの



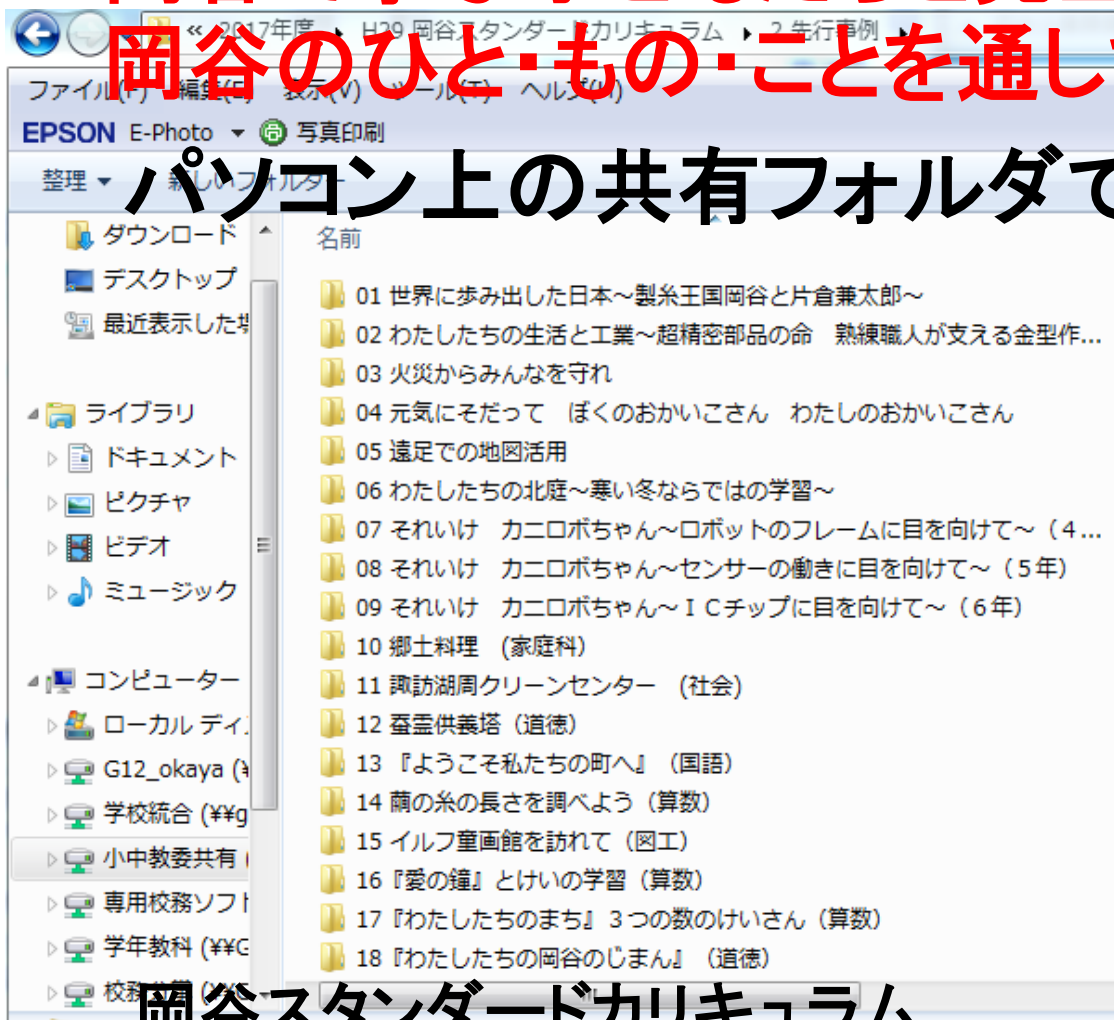
岡谷の
「ひと・もの・こと」
に学ぶ



子どもたちと先生方、岡谷なら
ではの学びの中で出会う人
たちの手によって発展していく
学びの道筋

岡谷で学ぶ子どもたちと先生方、地域に暮らす人たちが、 岡谷のひと・もの・ことを通して互いに学び合う双方向のベクトル

パソコン上の共有フォルダで市内全小中学校全職員で共有



岡谷スタンダードカリキュラム
実践事例



カリキュラム 単元例一覧
教材研究

先生方の取り組みをフォルダにアップ → 内容の広がり

持続可能なものにするための課題

① どのように更新していくか

カリキュラム本体(単元例一覧及び単元例)を更新(付け足し)していくことは、統合企画教員のような立場の教員がいなければ難しい

◇更新可能なシステムにするためには

- カリキュラム本体(単元例一覧及び単元例)は、一つのフォームとし、加除修正は行わない
- 新たに実践された事例はシートに記載 → パソコンの共有フォルダに蓄積
- 各校において取り組まれた教材研究 → パソコンの共有フォルダに蓄積
- 日常的に誰が岡谷スタンダードカリキュラムを管理するか。
(市全体の管理担当、各校の管理担当)
- 新たな事例や新たな教材研究をパソコンの共有フォルダに入れる際に、どのような手続きをとるか。

②双方向のやり取りをどの程度盛り込んだシステムにしていくか

素材研究に関する悩みや相談事を差し出し合い、お互いに岡谷の「ひと・もの・こと」に関する意味や価値を深めていけるようにしたい



掲示板のような気軽に相談事を書き込んでいけるシステム

「**岡谷スタンダードカリキュラム総合掲示板**」設置

- 今年度(H29年度)までは、総合掲示板に書き込まれた内容を、統合企画教員が目を通し、質問事項や相談事項があれば回答することができる。**次年度(H30年度)以降は、誰が管理していくのか。**

③子どもたちが見学・活動場所を訪れるための交通手段の確保

岡谷の「ひと・もの・こと」との
つながりを大切にする
岡谷スタンダードカリキュラム



岡谷の「ひと・もの・こと」素材 ……多項目かつ広範囲にわたっており、
バス等の**輸送手段が必要**

学習指導要領の改訂による各学年の授業時数の増加

●**移動に時間がかかることは不可能**

近年のバス代高騰と家庭間の経済状況の格差の増大

●**行事や学習活動における輸送費の保護者負担は、ますます困難**

実際に現地に赴き、学習対象を
自分の目で見て、触れて、体験する
活動が重要

主体的・対話的で深い学び

交通手段の確保

④ものづくり ロボットプログラミング授業の継続

◇予算

平成27年度から3年間続いた文科省委託事業が終了

→ 文科省からの予算付けがなくなる

この授業にかかる経費

多脚ロボットの借用料・・・約80万円(統合2校4～6学年対象時)

ものづくり材料費・・・一人当たり約500円

●来年度以降、ロボット借用料と材料費をどのように生み出すか。

＜考えられる方向性＞

- ・市による予算化(岡谷市魅力と活力ある学校づくり推進プラン等)
- ・一人当たりの材料費・・・各家庭から集めた学年費

④ものづくり ロボットプログラミング授業の継続

◇授業者

これまでの授業者

- ・統合企画教員 ← 任期はH29年度末まで
- ・小島先生（ものづくりフェアの講師） ← H28年度末で郡外に異動

●次年度以降、誰が授業をするのか。

＜考えられる方向性＞

- ・市内中学校技術科の先生方を授業者として派遣する。
- ・担任が授業を行う。
- ・岡谷工業高校との連携（岡工生による授業）。

このカリキュラムの内容は、市の職員にも是非ともお知らせしたいと思います。そして、私たちも、このカリキュラムの内容を勉強していかなければいけない、理解していかなければいけないと痛感しました。

私たちがもっと勉強しないと。

未来の担い手である子どもたちを育てていくことが
将来の岡谷を創っていくことになる

未来への
種まき

子どもたちの成長に関わる人たちが共に
子どもたちを育てていく

岡谷スタンダードカリキュラムは未来へのスタートライン